

“子どもたち一人一人を大切に”

特別支援教育について

松江市立出雲郷小学校
特別支援教育担当

国の方針として「**特別支援教育**」が学校教育法に位置づけられ、今年で20年目を迎えていますので、みなさんはその中身をご存知かと思います。

文部科学省は、平成18年度、通常学級に在籍する子ども達を含め、学習面、行動面、対人関係面で困難がある人への支援を広げる方針を出しました。これが、「**特別支援教育**」です。

「困った子」は「困っている子」

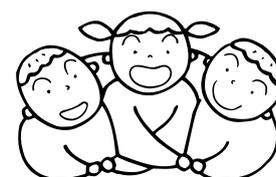


学び方には個性があり、一人一人にあった支援が必要です。例えば、おしゃべりは得意なのに、お話を聞くことは苦手な子どもがいます。たくさんの友達の中では落ち着かず動き回ってしまう子どもや、字を読んだり書いたり数を数えたりするのは得意だけれど、どうしても使った物の片付けができない子どももいます。こういった子どもたちは、しばしば、まわりの大人たちから見れば、「**困った子ども**」としてとらえられ、ときとして「どうして〇〇できないの!」といった叱られる対象となってしまうことがあります。

しかし、そういった子どもたちを、よく観察してみると、実は、やろうとしてもできない自分自身に、本人が一番「困っている」ということに気づきます。そういった子どもたちに、もし、まわりの人たちが原因もわからないまま不適切な対応をしてしまうと、その子たちは悩んだり傷ついたりして、自尊心を損ない、学習意欲を失い、ついには不適応行動をとってしまうことにもなりかねません。

一人一人のニーズに合わせて 適切な指導と必要な支援を

その子どもがつまずいている点を明らかにし、それに合わせて配慮ある対応（合理的配慮）をすることによって、学習内容が理解できるようになったり、落ち着いて学校生活が送れるようになったりすることが可能です。さらに、わかる喜び、できる喜びを感じると、自信や自尊心にもつながります。



子どもたちがこのような体験を積み重ね、自分の得手・不得手を理解し、苦手なところは得意なところで補ったり、必要な支援を求めたりしながら、得意なところをさらに伸ばしていく努力をすれば、将来すばらしい仕事ができたり、人生を充実したものにしていけるようになっていきます。これこそが、「**特別支援教育**」のめざすところであり、私たちの学校のめざすところです。

遠慮なくご相談を！

お子さんのことで悩んでおられることや気にかかることがあったら、気軽に相談をもちかけてください。一緒に考えていきましょう。※早めの相談が、早期の支援を可能にします。本校では、ウィッシュ（島根県東部発達障害支援センター）やエスコ（松江市発達教育相談支援センター）等との相談もしながら支援を行っています。